

用語	空気伝搬音（くうきでんぱんおん）	作成：2019.11.14
		改訂：2024.02.15
説明	音源から空間に直接発せられた音が空気の振動として伝搬していく現象を空気伝搬と呼ぶ。同一空間内の音源から伝搬する音や、界壁や窓などを直接透過して伝搬する音を空気伝搬音と呼ぶ。空気音と表記されることもある。	

音の伝搬には空気中を伝搬する空気伝搬音と固体や液体中を伝搬する固体伝搬音がある。固体伝搬音は建物の床や壁などに与えられた衝撃によって生じた振動が建物内を伝わって、最終的に音として放射されるのに対して、空気伝搬音は空気中に発せられた音が、空気の振動として伝わっていく。なお、空気伝搬音が壁などを透過する段階では、厳密には壁の振動を介して音源側から受信側に伝搬する。音源側の空気の振動が壁を振動させ、受信側で音として放射される経路であるが、このような経路による音も空気伝搬音に含む。

空気伝搬音は、音源からの距離が遠くなるほど音が小さくなる性質（距離減衰）や、防音壁などの上部から音が回り込みながら小さくなる性質（回折減衰）を持つ。

